

---

---

## “鬱”の口腔保健

鶴本明久

### Oral health promotion seen in “Gloomy”

Akihisa Tsurumoto

---

拝啓

「失われた10年」とは私と同じ佐世保市出身の作家村上龍が考え出した言葉ですが、現在は「失われた」どころか「奪われる10年」といってもいような大変な状況になっているようです。「失われた」では、やるべきことをタイムリーに行わなかったために当然獲得したであろう利益（財産、教育、環境、生活、福祉etc.）を逃してしまったということで、惜しいことをしたなという感じです。しかし、「奪われる」では社会システムの根幹を支えている最も信頼していた官僚や金融組織が実はとんでもないことをしていて、人々の財産（税金も含めて）をかすめ取っていたということが表面に出てしまったということで、巧妙な詐欺師にあって、気づいたら一家の財産が無くなっていったという感じです。回復には相当な時間がかかるということです。昨年あたり本屋さんの店頭に「蟹工船」が山積みされていたのにも驚かされましたが、教え子から「チェ・ゲバラの映画見ましたか？チェ・ゲバラってどんな人ですか？」と聴かれたのにはさらに驚きました。もちろん、教え子には「ゲバラの日記」を思い出しながらゲバラ

の友情について語ってしまいました。これは、成熟した資本主義によって起こってしまった社会の矛盾への反発でしょうか。

健康づくりやヘルスプロモーションは、豊かで、明るい社会の一つの要素といった“ひまわり”のイメージのような気がします。どう考えても“蟹工船”や“チェ・ゲバラ”のイメージではありません。逆に、“蟹工船”のイメージに合うヘルスプロモーションがあったらそれはそれなりに凄いことだと思います。KAPモデル、ヘルスビリーフモデルそしてプライマリー・ヘルスケアからヘルスプロモーションへのプロセスを考えると、ヘルスプロモーションは過剰な健康資源（栄養、運動、保健医療サービス、保健情報etc.）の浪費により発生した弊害を諫めるために考えられたという側面もあると思うのです。であるとすれば、「奪われる」の中では健康資源が制限され、一方で二極分化（社会格差の拡大）が加速される状況で「みんなで享受する」「ひまわりのヘルスプロモーション」は存在するののかとの危惧を抱くわけです。

今、私が感じる「失われた歯科保健」の原因は、歯科保健サービスにおける「ニーズ」と「ダイヤモンド」の大きな乖離にあると考えています。ここでのニーズは経済学でいう「ニーズ」「ウォンツ」でなく、医学的（歯科医師から見た）ニーズのことです。歯科疾患を中心に考えてきたニーズは以前であれば住民のダイヤモンド（欲しいもの）と一

---

#### 【著者連絡先】

〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3

鶴見大学歯学部予防歯科学講座

鶴本明久

E-mail : tsurumoto-a@tsurumi-u.ac.jp

致していたのですが、疾病構造や社会環境が変化すれば「ダイヤモンド」も複雑系的に変化します。今回、そのギャップについて編集長にお手紙を書くつもりでしたが、世の中が「失われた」から「奪われた」に変化している時に、一体口腔保健がどこに流れていくのかがとても気になりました。このけたたましい変化にうんざりしていた時に、五木寛之の「鬱”の時代」という言葉を見つけました。基本的に「大河の一滴」以降の五木は好まないのですが、そのわりには文庫本がでると買ってしまいます。日本は戦後一貫して“躁の時代”を走り続け、上昇だけを唯一の価値観としてきたが、今は”鬱の時代”に入っているのです、それぞれじっと静かに下ることを楽しめばいいといっています。私も健康問題を常に“躁”の中で考えてきたような気がしますが、ずっと違和感を覚えていました。「持続する地域保健」、「長寿が邪魔にならない高齢社会」などを「我を振り返り、見極める」という”鬱”の中で考えるというもの新鮮なアイデアのような気がします。“鬱のヘルスプロモーション”、“鬱の口腔保健”を考えるこ

とが一つのブレイクスルーへの道かもしれません。

「三国志」というと若き”劉備玄德”や“曹操”の活躍から始まりますが、宮城谷昌光の「三国志」は後漢衰亡の丁寧な説明から始まります。確かに後漢の滅亡がなければ「三国志」は始まらなかったわけですが、とても興味深かったのは、その時々の権力の中枢にいた人達が常に大きな帝国滅亡の危機感を持ちながら100年の長い時間をかけて後漢を亡ぼしていく姿です。しかし、それは後世になって客観的に検証されるから判るので、渦中の人々は大きな時代のうねりまでは判らなかったようです。「王朝という大船に乗った人々は、船の中ばかり見ているので、時という大河をくだっていることに気づかないし、この船は不沈であると信じているので、積載量の過剰に危険を感じない。」という文章がありました。船の中ばかり見ているというのは“躁”の状態です。やはりここでは、“鬱の口腔保健”というのも大切で、しばし船から降りて岸辺から船の状態を見る時間があってもよいような気がします。

---

## Oral Health Promotion seen in “Gloomy”

Akihisa Tsurumoto

(Tsurumi University, School of Dental Medicine, Department of Preventive Dentistry and Public Health)

In the unprecedented and serious disturbance of socio-economic conditions, the present health policies and philosophy do not appear to be able to exist without the change. However, we should not merely think it pessimistically. It is also important to consider the issue of “aging” and “health” calmly and objectively. We should change the thought of “manic” that the concept of health is absolute and the common sense of value for all people. I also think that it is a good idea to understand “aging” and “health” as the soft landing, considering the various factors in “gloomy sense of values”.

Health Science and Health Care 8 (2) : 82 – 83, 2008